

ざっくり
黙示録

8

黙示録13～14章
大患難時代・中間II

反キリスト

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 反キリストとは？

II. 反キリスト・偽預言者 13章

III. 神の勝利の七つの宣言 14章

IV. まとめと適用

大患難時代の聖徒に学ぶ
背教の時代の心構え



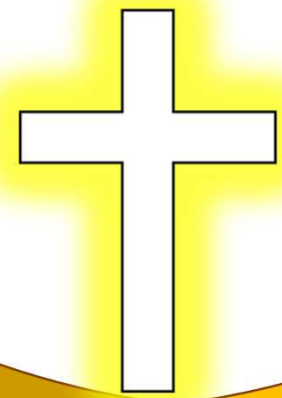
0. 終末のおさらい



【聖書の世界観には、初めがあり、終わりがある】

天地創造
人類の墮罪

キリストの
十字架の
死と復活

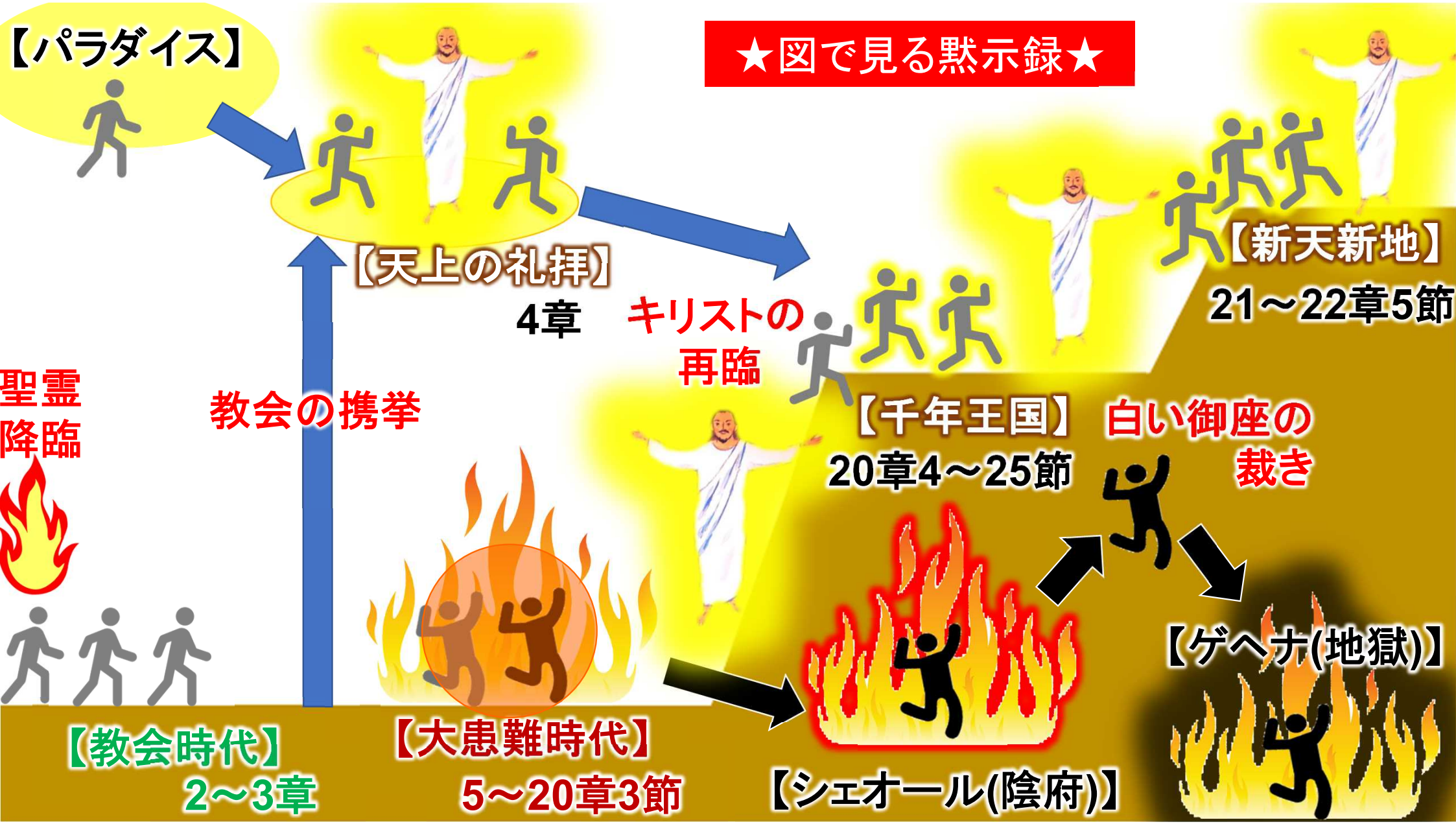


これから起きること

今の時代(教会時代)

～ゴールは、世界の回復。理想世界の実現～

★図で見る黙示録★



黙示録アウトライン

序 文	栄光のキリストとの遭遇	1章
教会時代(現在)	教会への励ましと警告	2～3章
天上の礼拝	教会の携挙～天上の礼拝	4～5章
大艱難時代	大艱難時代に起こること キリストの再臨	6章～20章3節
千年王国	千年王国の様子 白い御座の裁き(最終的裁き)	20章4節～25節
新天新地	地に降る天のエルサレム 永遠の神の王国	21章1節～22章5節
結 論	イエスの宣言と招き 警告と約束	22章6～21節

大患難時代

大患難前	天上の礼拝	教会の携挙後の天の様子	4:1~5:14
大患難時代	前半(3年半)	7つの封印の裁き	6:1~17
		144,000人のユダヤ人と大宣教	7:1~17
		7つのラツパの裁き	8:1~9:21
	中間期	第7のラツパの預言・小さな巻物 第三神殿・二人の証人の死と復活 大患難時代のイスラエル 海からの獣・地からの獣 神の勝利の7つの宣言	10:1~11 11:1~13 12:1~18 13:1~18 14:1~20
	後半(3年半)	天に現れるしるし 7つの鉢の裁き バビロン	15:1~10 16:1~21 17:1~18:24
メシア再臨	千年王国	再臨	19:1~20:3

【大患難時代とは？】

- 今の「恵みの時代」の最後の7年間。
- 聖書預言では、「**主の日**」とも呼ばれる。
- かつてない大災厄が地上を襲う。

【大患難時代の目的】

- ① 地上から悪と悪人を取り除くため。
- ② 全世界規模の霊的覚醒を起こすため。
- ③ イスラエルを民族的回心に導くため。

【大艱難時代の始まり】

- 教会の携挙の後。(その何年後かは分からない)
- **反キリスト**がイスラエルと7年間の契約を結ぶ時。



【1. 封印の裁き】



三つの災い



【2. ラツパの裁き】

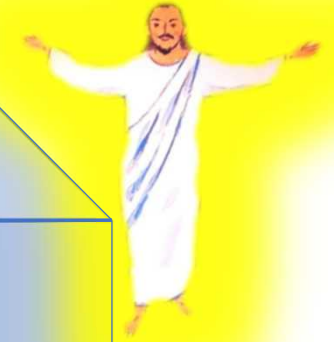


【3. 鉢の裁き】



天上の礼拝

大患難時代



教会時代

御国の時代

携拳

封印の
裁き

ラッパの
裁き

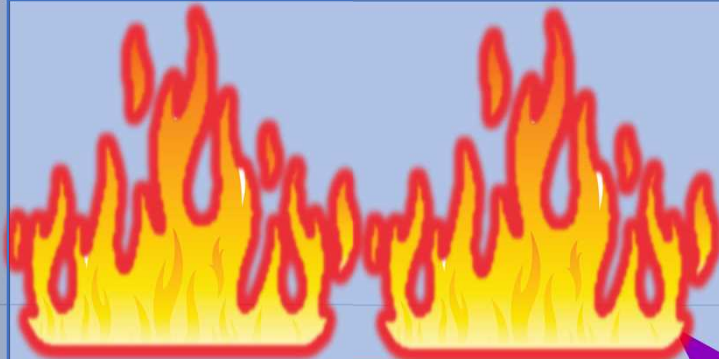
鉢の裁き

メシア再臨
イスラエルの
民族的回心

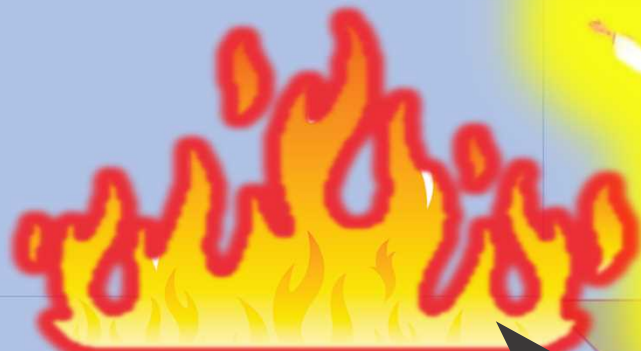
天上の礼拝



大患難時代



14万4千人による世界宣教



ユダヤ人大迫害



御日の時代



教会時代

携拳

封印の
裁き

ラッパの
裁き

鉢の裁き

メシア再臨
イスラエルの
民族的回心

天上の礼拝

世界宣教・大リバイバル

14万4千人のユダヤ人 2人の証人

大迫害・多数の殉教者

封印の裁き

ラツパの裁き

鉢の裁き

・教会の携挙

- ・イスラエルの契約
- ・反キリストと
- ・反キリストの世界征服
- ・世界大戦・大飢饉
- ・聖徒の迫害
- ・自然界の異変

- ・1 / 3の宇宙の滅び
- ・1 / 3の川の滅び
- ・1 / 3の海の滅び
- ・1 / 3の土地の滅び
- ・悪霊による死
- ・悪霊による苦痛

- ・二人の証人の死と復活
- ・反キリストが豹変し、
- ・神殿を汚す
- ・反キリストの死と復活
- ・ボツラへ逃れる

- ・イスラエルへの大迫害
- ・悪性の腫れ物
- ・血に染まる海
- ・血に染まる川と泉
- ・太陽に焦がされる
- ・暗黒がバビロンを包む
- ・干上がるユーフラテス
- ・招集される悪の軍隊

・ハルマゲドン

・メシアの再臨

反キリストの政治的支配

反キリストの政治宗教の支配

I. 反キリストとは？



【反キリストという呼び名】

★反キリスト ➡ アンティクリストス

(I ヨハネ2:18,2:22,4:3, II ヨハネ1:7)

「 I ヨハネ 2:18 幼子たち、今は終わりの時です。

反キリスト(単)が来るとあなたがたが聞いていたとおり、今や多くの反キリスト(複)が現れています。」

「 I ヨハネ 2:22 偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否定する者、それが反キリスト(単)です。」

■「キリストに背く者たち・反キリスト(複)」の背後に、本当の「反キリスト(単)」がいる。



【キリストの起源】 創世記3:15

「創 3:15 わたしは敵意を、おまえと女の間、**おまえの子孫**と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」

■ アダムの罪の後に、神がサタンに告げたメシア預言。

■ 「**女の子孫(メシア)**」が、犠牲を払いつつ、
「**サタンの子孫(反キリスト)**」を打つということ。

■ **メシア(キリスト)**は、**神の子**。子なる神。
「**反キリスト**」は、**サタンの子**。サタンの化身。



【反キリスト出現の時】 II テサロニケ2:2~3

霊によってであれ、ことばによってであれ、私たちから出たかのような手紙によってであれ、**主の日**がすでに来たかのように言われるのを聞いても、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。

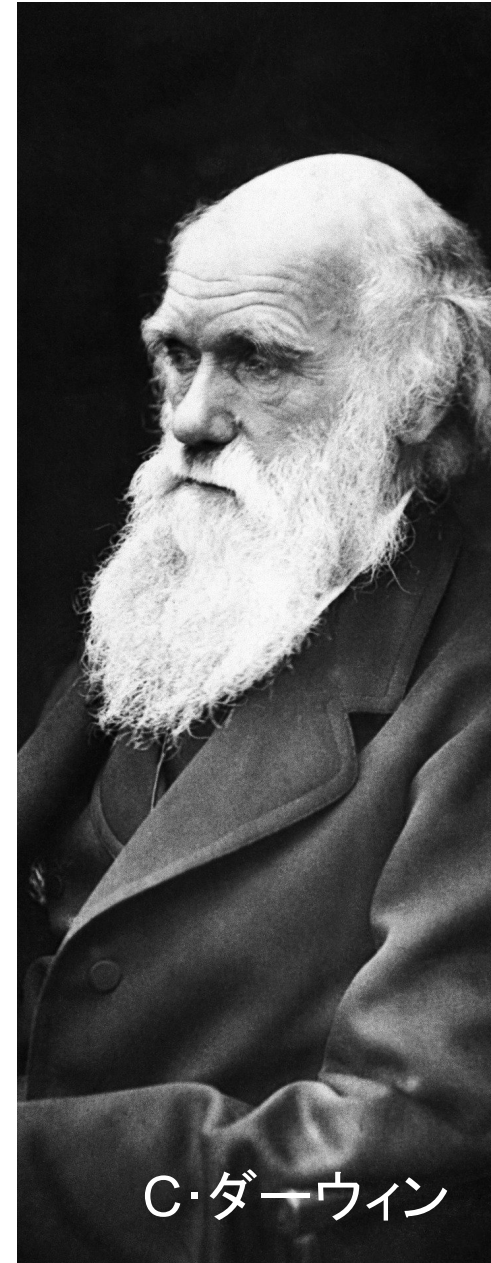
どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。まず背教*が起こり、不法の者*、すなわち滅びの子*が現れなければ、主の日*は来ないのです。

* **不法の者、滅びの子** ➡ **反キリスト**

* **大患難時代(主の日)**の前に、反キリストは現れる。

* **背教の時代**は、19世紀からすでに始まっている。

進化論、自由主義神学の台頭、基本的教理の否定....

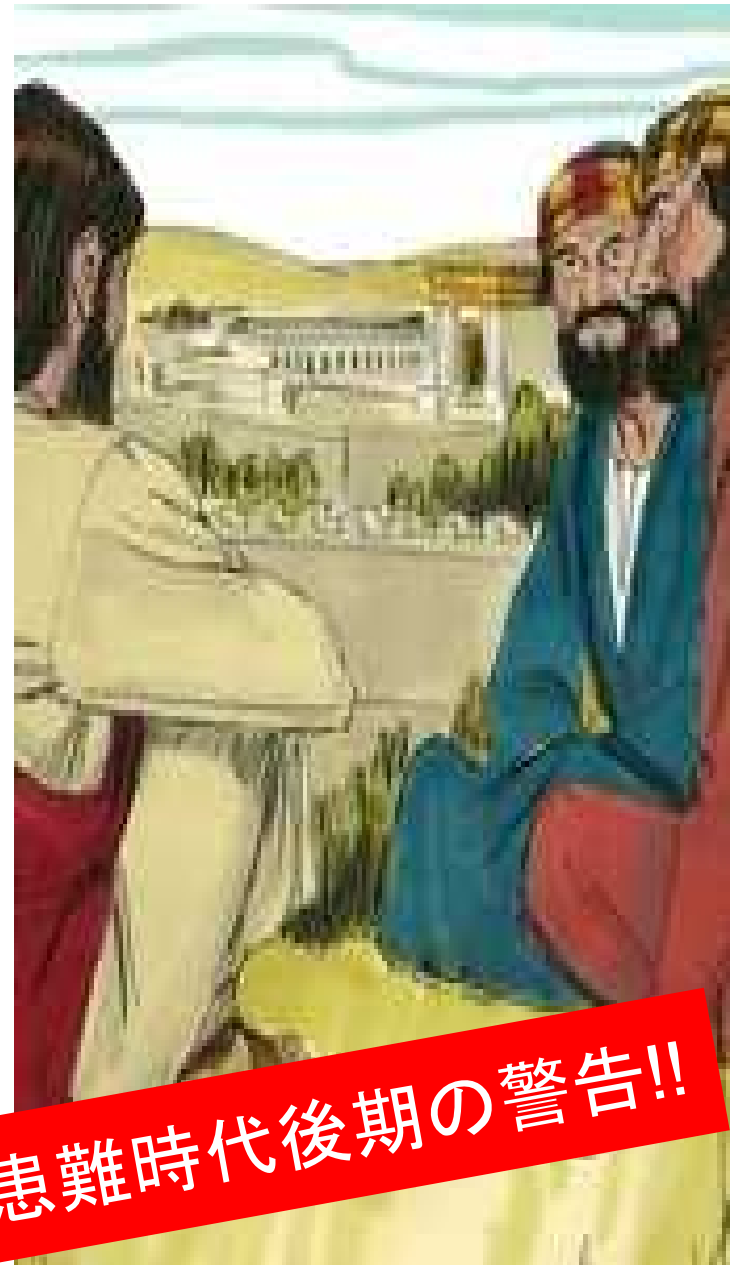


C・ダーウィン

【主イエスの警告】 マタイ24:15~16

それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす忌まわしいもの』が**聖なる所**に立っているのを見たら——読者はよく理解せよ——ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。

- 十字架を目前にしたオリーブ山での説教。
イエス自身による弟子たちへの警告。
- **反キリスト**は、大患難時代の後半、本性を現し、**神殿**を穢し、ユダヤ人への大迫害を開始する。

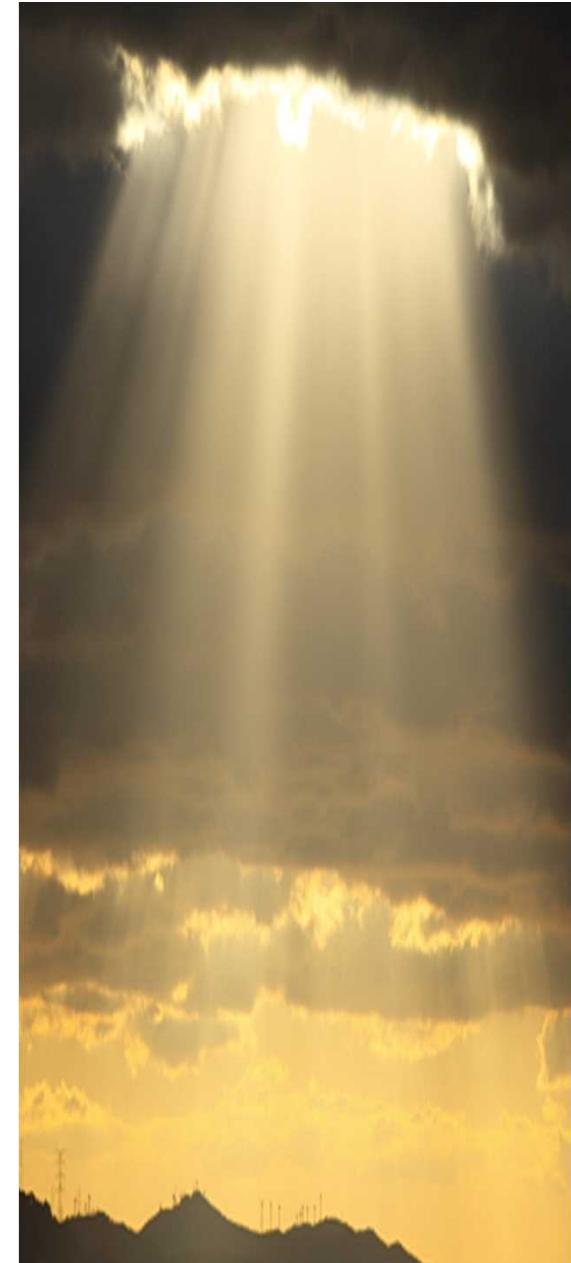


大患難時代後期の警告!!

【反キリストの出現時期】 ダニエル書9:27

「彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れる。そしてついには、定められた破滅が、荒らす者の上に降りかかる。」

- 「70週(69週+1週)の預言」 ...重要なメシア預言。
神殿再建の布告から49年(7週)後に神殿が再建。
434年(62週)後、メシアがエルサレムに入城(AD30)。
メシアは、十字架にかけられる。
- 長い空白を経てやってくる、最後の1週(7年間)が、
大患難時代。「荒らす者(反キリスト)」の出現の時。



【70週の預言】 ダニエル書9:24～26

9:24 あなたの民とあなたの聖なる都について、**七十週**が定められている。それは、背きをやめさせ、罪を終わらせ、咎の宥めを行い、永遠の義をもたらし、幻と預言を確証し、至聖所に油注ぎを行うためである。

9:25 それゆえ、知れ。悟れ。エルサレムを復興し、再建せよとの命令(キュロス王の勅令)が出てから、油注がれた者、君主が来るまで(神殿再建)が七週。そして苦しみ**の期間(中間時代)である六十二週**の間に、広場と堀が造り直される。

9:26 その六十二週の後、油注がれた者(メシア)は断たれ、彼には何も残らない。次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する(ローマのエルサレム陥落)。その終わりには洪水が伴い、戦いの終わりまで荒廃が定められている。

70週のゴールは、
千年王国

キュロス王の勅令～
神殿再建・49年

7

メシアのエルサレム
入城・343年
(AD30)

62

最後の1週が、
大患難時代

1

ダニエル 70週の預言 (69週+1週)

483年(69週)

49年(7週)

434年(62週)

・キユロス王による
神殿再建の布告

・エルサレム神殿再建
(貧相な建物だった)

・ヘロデ大王による
神殿の大改修

・メシアの初臨

・エルサレム入城

・メシアの十字架と復活

空白期間

・反キリストと
イスラエルの七年の契約

時期不明

大患難時代

7年(1週)

3年半(半週)

3年半(半週)

・反キリストが契約破棄
神殿を荒らす

・メシアの再臨
ハルマゲドン

【反キリストの様々な名称】

ダニ 8:23 彼らの治世の終わりに、その背く者たちが行き着くところに至ったとき、横柄で策にたけた一人の王が立つ。

ダニ 9:26 その六十二週の後、油注がれた者は断たれ、彼には何も残らない。次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する。その終わりには洪水が伴い、戦いの終わりまで荒廃が定められている。

Ⅱテサ 2:3 どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。まず背教が起こり、不法の者、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないのです。



Ⅱ. 反キリスト・偽預言者

黙示録13章



【一頭の獣・反キリスト】 黙13:1～2

また私は、海から一頭の獣が上って来るのを見た。これには十本の角と七つの頭があった。その角には十の王冠があり、その頭には神を冒瀆する様々な名があった。私が見たその獣は豹に似ていて、足は熊の足のよう、口は獅子の口のようであった。竜*はこの獣に、自分の力と自分の王座と大きな権威を与えた。

* ダニエル7章・歴代の帝国の特徴。

- ①獅子 ➡ バビロニア帝国
- ②熊 ➡ ペルシャ帝国(メ・ペルシャ)
- ③豹 ➡ ギリシャ帝国

* 竜はサタン。反キリストはサタンの権威を帯びる。

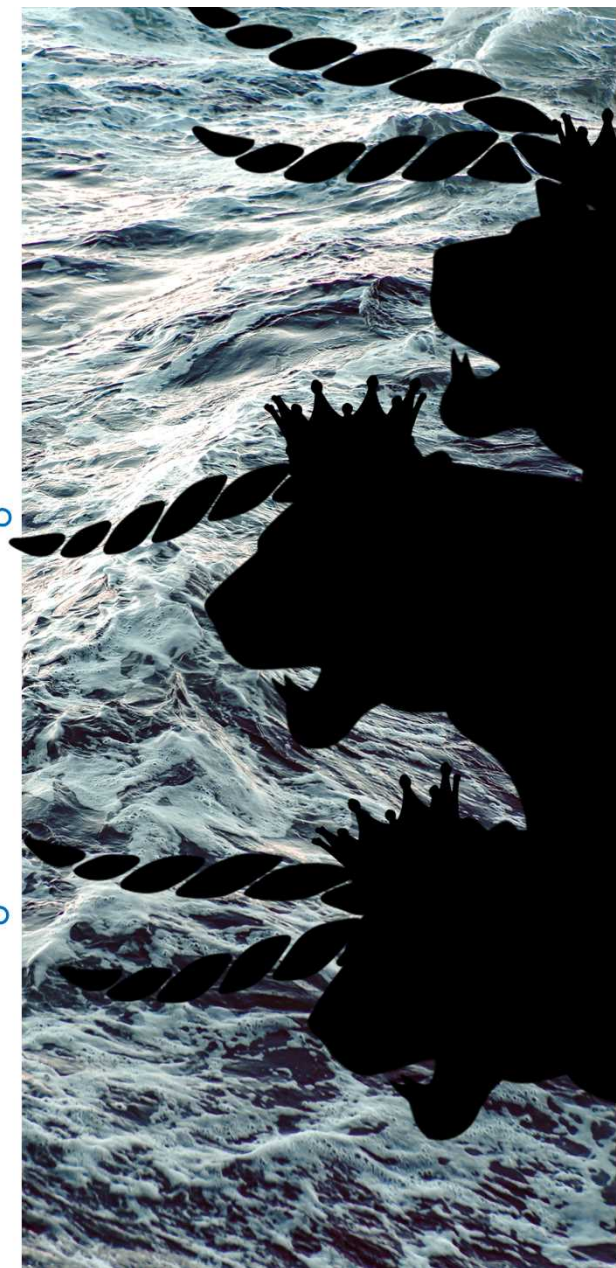


※【一頭の獣・反キリスト】 ダニエル書7:23～25

彼はこう言った。『**第四の獣は地に起こる第四の国。**これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らの後に、**もう一人の王**が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。いと高き方に逆らうことばを吐き、いと高き方の聖徒たちを悩ます。彼は時と法則を変えようとする。聖徒たちは、一時と二時と半時の間、彼の手任せられる。

* **共和制をとるローマ帝国の系譜・世界統一政府。**

■ **反キリストは、3年半、イスラエルを迫害する。**



※【王の夢】 ダニエル書2:31～33

王さま。あなたは一つの大きな像をご覧になりました。見よ。その像は巨大で、その輝きは常ならず、それがあなたの前に立っていました。その姿は恐ろしいものでした。その像は、①頭は純金、②胸と両腕とは銀、③腹とももとは青銅、④すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土(陶器)でした。

- 預言者ダニエルが、バビロニア王ネブカドネツアルの夢を解き明かした。
- それは、世界帝国の変遷を示していた。



帝国の変遷

バビロニア	絶対的な一人の王が、一つの王国を治める
ペルシャ	法が、王の上にある。
ギリシャ	人間中心主義。 民主主義の結末として、独裁に至る。
ローマ	世界の諸国が、より強力な独裁者によって一つに束ねられていく。 共和制 → 帝国主義へ

バビロニア (王国)

ペルシャ (立憲君主)

ギリシャ (民主・独裁)

ローマ (共和制・帝国主義)

金

銀

銅

鉄・陶器

※聖書的には、現在は、ローマ的世界の延長線上。

【聖書的理想の統治とは？】

- 金から陶器へ、劣化していく王の権威
王の権威は、神が与えたもの。
帝国の変遷と共に、王の権威が劣化し、
唯一の神への畏れが失われ、人間中心
になっていく…。
- 聖書の理想的統治は、王制。
完全な王による王制がゴール。
⇒ 王なるメシアによる統治。



【反キリストの復活】 黙13:3～5

その頭のうちの一つは打たれて死んだと思われたが、その致命的な傷は治った。全地は驚いてその獣に従い、竜を拝んだ。竜が獣に権威を与えたからである。また人々は獣も拝んで言った。「だれがこの獣に比べられるだろうか。だれがこれと戦うことができるだろうか。」

この獣には、大言壮語して冒瀆のことばを語る口が与えられ、四十二か月の間、活動する権威が与えられた。

- 復活した反キリストは、二人の証人を殺す(黙11:7)
- 人々は、反キリストに従い、サタンを拝む。
- 反キリストは、自らを神とし、大患難時代後半(3年半)、地上世界に君臨し、宗教的・政治的権力を独占する。



【反キリストの支配】 黙13:6～8

獣は神を冒瀆するために口を開いて、神の御名と神の幕屋、また天に住む者たちを冒瀆した。

獣は、聖徒たちに戦いを挑んで打ち勝つことが許された。また、あらゆる部族、民族、言語、国民を支配する権威が与えられた。

地に住む者たちで、世界の基が据えられたときから、屠られた子羊のいのちの書にその名が書き記されていない者はみな、この獣を拝むようになる。

* 主を信じて救われた者の名が記される書。

■ 主イエスを信じるか。反キリストを拝むか。

➡ 永遠の運命を決める分岐点となる!!



【別の獣・偽預言者】 黙13:9～12

耳のある者は聞きなさい。捕らわれの身になるべき者は捕らわれ、剣で殺されるべき者は剣で殺される。ここに、聖徒たちの忍耐と信仰が必要である。

また私は、別の獣が地から上って来るのを見た。それは、子羊の角に似た二本の角を持ち、竜が語るように語っていた。

この獣は、最初の獣が持っていたすべての権威を、その獣の前で働かせた。また、地と地に住む者たちに、致命的な傷が治った最初の獣を拝ませた。

* 別の獣 → 偽預言者。悪の三位一体の偽の聖霊。

■ 偽預言者は、反キリストを崇めさせる。偶像の祭司。



【反キリストの像】 黙13:12~15

また、**大きなしるし**を行い、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。

また、この獣は、あの獣の前で行うことが許された**しるし**によって、**地に住む者たちを惑わし**、剣の傷を受けながらも生き返ったあの獣の像を造るように、地に住む者たちに命じた。

それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がものを言うことさえできるようにし、また、その像を拝まない者たちをみな殺すようにした。

- サタンも反キリストも、神のゆるされた範囲でしか、力をふるうことはできない。試される人々の信仰。



【反キリストの刻印】 黙13:16～18

また獣は、すべての者に、すなわち、小さい者にも大きい者にも、富んでいる者にも貧しい者にも、自由人にも奴隷にも、その右の手あるいは額に刻印を受けさせた。

また、その刻印を持っている者以外は、だれも物を売り買いできないようにした。刻印とは、あの獣の名、またはその名が表す数字である。

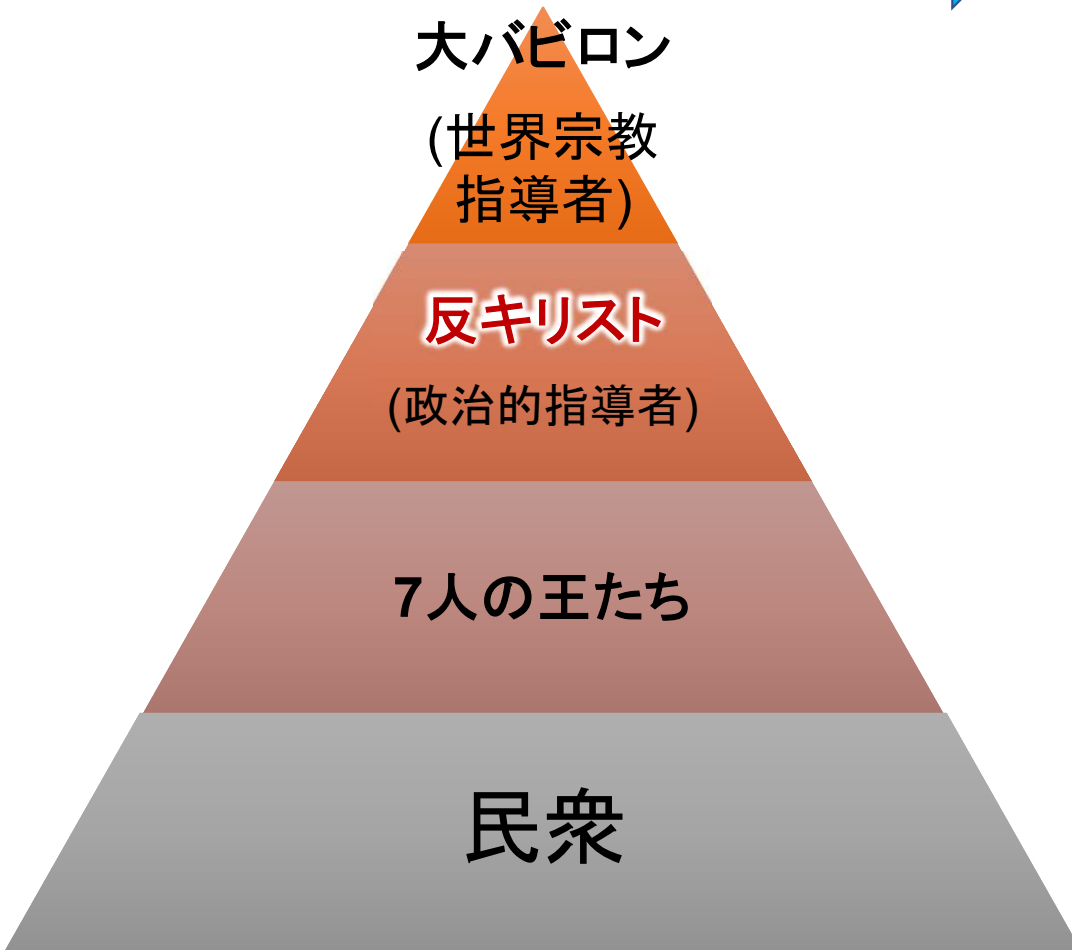
ここに、知恵が必要である。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。それは人間を表す数字であるから。その数字は六百六十六である。

- ヘブル語のアルファベットは数字に変換できる。
- 反キリストの刻印が押された者は、永遠の滅びが確定。

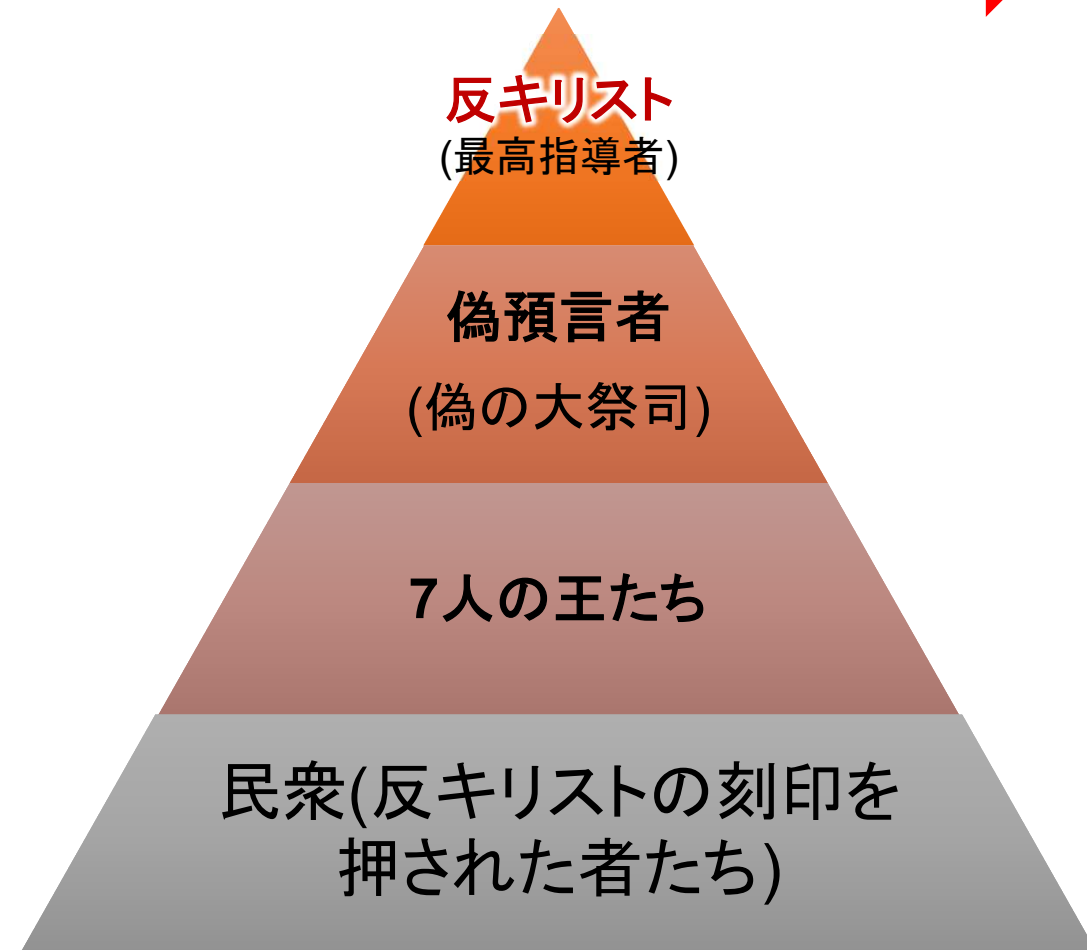


大患難時代の世界の統治体制

前半・3年半



後半・3年半



Ⅲ. 神の勝利の七つの宣言 黙示録14章



【第一の宣言・メシアと14万4千人】 黙14:1~2

また私は見た。すると見よ、子羊がシオンの山の上に立っていた。また、子羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。また、私は天からの声を聞いた。

それは大水のとどろきのようであり、激しい雷鳴のようでもあった。しかも、私が聞いたその声は、豎琴を弾く人たちが豎琴に合わせて歌う声のようであった。

- 14万4千人のユダヤ人伝道者たちが、シオンの山で、メシアと共に礼拝している。
 - ➡ 千年王国の様子が先取りとして記される。
 - ➡ 神の目には、すでに実現していること!!



神が宣言されたことは、
すでに実現したに等しい!!

【千年王国における新しい歌】 黙14:3～5

彼らは御座の前と、四つの生き物および長老たちの前で、**新しい歌**を歌った。しかし、地上から贖われた十四万四千人のほかは、この歌を学ぶことができなかった。この人たちは、女に触れて汚れたことがない者たちで、童貞である。彼らは、子羊が行く所、どこにでもついて行く。彼らは、神と子羊に献げられる初穂として、人々の中から贖い出されたのである。彼らの口には偽りが見出されなかった。彼らは傷のない者たちである。

* **新しい歌** ...千年王国で歌われる賛美。

■ 大患難時代、大迫害の中、伝道した14万4千人のユダヤ人が、千年王国の礼拝の重要な奉仕者に!!



【第2の宣言・御使いによる伝道】 黙14:6～7

また私は、もう一人の御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は地に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、言語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。

彼は大声で言った。「神を恐れよ。神に栄光を帰せよ。神のさばきの時が来たからだ。天と地と海と水の源を創造した方を礼拝せよ。」

* 最終的な鉢の裁きを前に、悔い改めが求められる。

➡ 救いを得る、最後のチャンス。



【第3の宣言・バビロンの裁き】 黙14:8

また、その御使いの後にもう一人、第二の御使いが来て言った。「倒れた、倒れた、**大バビロン**が。御怒りを招く淫行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた都が。」

* **大バビロン** ...反キリストの帝国の首都。

➡かつてのバビロンの復興した姿。

■最後の裁きにおいて、大バビロンも滅ぼされる。

➡詳しくは、黙示録17~18章。

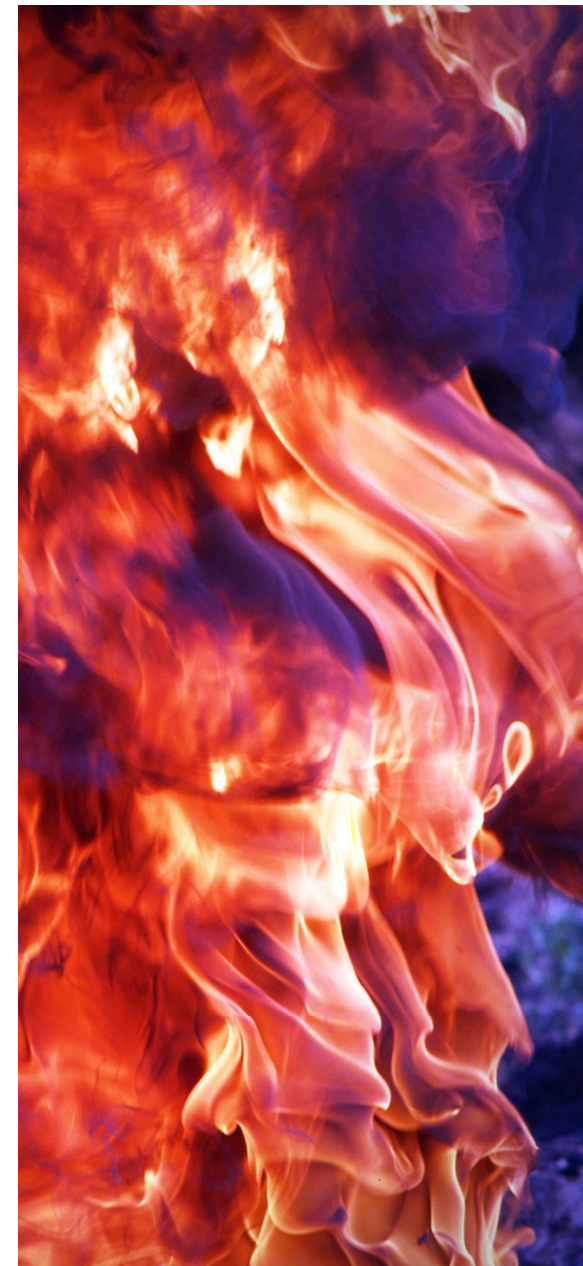


【第4の宣言・獣を拝む者たち】 黙14:9～11

また、彼らの後にもう一人、第三の御使いがやって来て、大声で言った。「もしだれかが獣とその像を拝み、自分の額か手に刻印を受けるなら、その者は、**神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた、神の憤りのぶどう酒を飲み、**聖なる御使いたちと子羊の前で火と硫黄によって苦しめられる。彼らの苦しみの煙は、世々限りなく立ち上る。獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者には、昼も夜も安らぎがない。」

*** 一切の憐れみのない裁き ➡ 永遠の滅び・ゲヘナ。**

■ 反キリストの刻印を押された者は、厳しく裁かれる。



【第5の宣言・聖徒たち】 黙14:12～13

ここに、聖徒たち、すなわち神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける者たちの忍耐が必要である。

また私は、天からの声がこう言うのを聞いた。「書き記せ、『今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである』と。」御霊も言われる。「しかり。その人たちは、その労苦から解き放たれて安らぐことができる。彼らの行いが、彼らとともにについて行くからである。」

* 大患難時代後半・3年半の大迫害が警告される。

■ おびただしい数のユダヤ人と異邦人信仰者が、迫害によって、殉教の死を遂げていく。



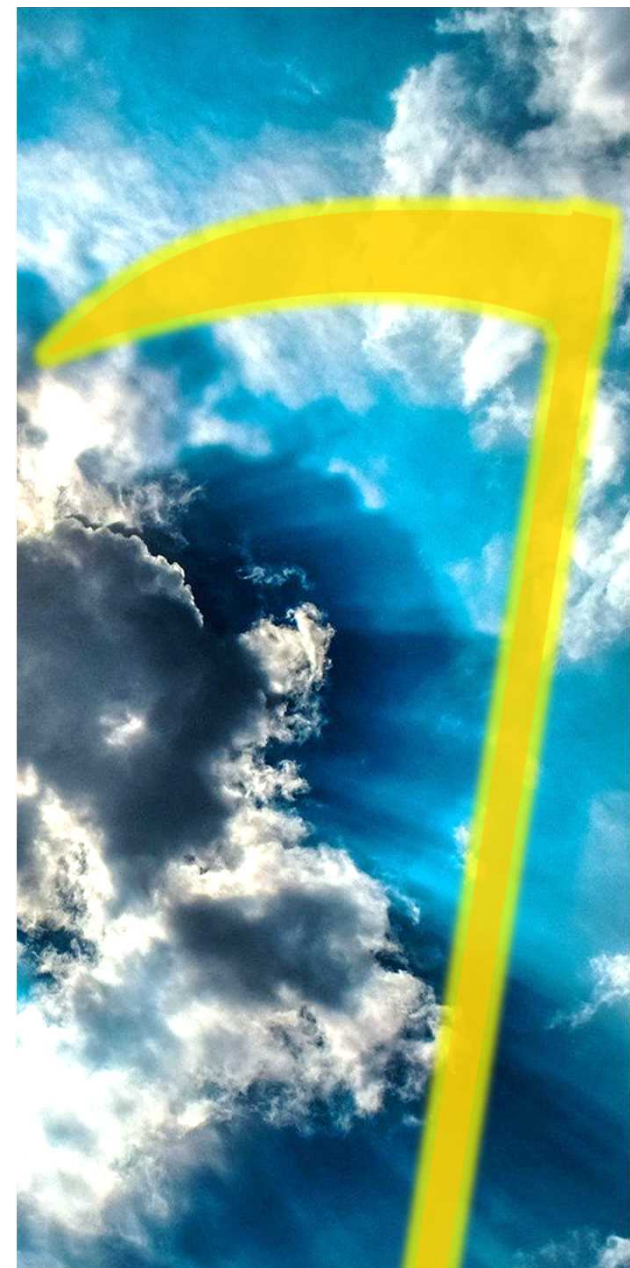
【第6の宣言・刈り取り】 黙14:14～16

また私は見た。すると見よ。白い雲が起こり、その雲の上に人の子のような方が座っておられた。その頭には金の冠、手には鋭い鎌があった。

すると、別の御使いが神殿から出て来て、雲の上に座っておられる方に大声で叫んだ。「あなたの鎌を送って、刈り取ってください。刈り入れの時が来ましたから。地の穀物は実っています。」

雲の上に座っておられる方が地上に鎌を投げると、地は刈り取られた。

■最後の刈り取りは、メシアご自身がなされる。



【第7の宣言・神の激しい怒り】 黙14:17～20

それから、もう一人の御使いが天の神殿から出て来たが、彼もまた、鋭い鎌を持っていた。

すると、火をつかさどる権威を持つ別の御使いが祭壇から出て来て、鋭い鎌を持つ御使いに大声で呼びかけた。「あなたの鋭い鎌を送って、地のぶどうの房を刈り集めよ。ぶどうはすでに熟している。」

御使いは地上に鎌を投げて、地のぶどうを刈り集め、神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。

都の外にあるその踏み場でぶどうが踏まれた。すると、血がその踏み場から流れ出て、馬のくつわの高さに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。



大患難時代の最後
神の激しい裁きが！



IV. まとめと適用

大患難時代の聖徒に学ぶ
背教の時代の心構え

【反キリストとは？】

- 世の終わり、大患難時代の前に現れる。
- イスラエルと契約を結び、大患難時代に突入する。
- サタン力をもって、世界政府後の十の国の3人の王を打ち倒し、7人の王を従えて、世界の政治的指導者となる。
- 後半に、一方的に契約を破棄し、ユダヤ人の大迫害を開始する。殺されるが、復活して、二人の証人を殺す。。
- 政治宗教の完全な支配者となる。世界中の民が、反キリストを拝む。
- 額か手に、反キリストの刻印を押された者だけが、経済活動を許される。
- 世界中の軍隊を率いて、イスラエルに最終戦争を挑む。
- 再臨のメシアによって、永遠に滅ぼされる。

【今の時代にも、勢力を伸ばす反キリストの霊】

■ 背教の時代には、小さな反キリスト、偽教師が大勢現れる。

【反キリストとは、どんな人物なのか？】

■ 悪の見分けが難しいのは、光の天使をも装おうから。(Ⅱコリ11:14)

■ 反キリストは、世界中の人々の熱狂的な支持を受ける。

...公正、潔癖。弁舌巧み。容姿も美しく。秀でた才能、カリスマ性。

■ 反キリストの本性は偽り。サタンの化身。悪の三位一体の一部。

■ 神の民イスラエルと聖徒たちへ激しい憎悪をたぎらせる。

➡ 反キリスト・サタンに抗う最大の武器は、“**正しく解釈されたみ言葉。**”

日々み言葉を味わい、主を試みることなく、ただ主を礼拝し、仕える。

(マタイ4:1～11)

「天のお父さま。わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

私たちを惑わし、不当に訴える者たちの手から、お守りください。

混沌とした時代にあって、ただ、み言葉への理解を深め、

主に心からの信頼を抱き、従い行く者と、導いてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」